

建築

と



時間

と



妹島和世



監督・撮影..

ホンマタカシ

大阪芸術大学に

「丘」が建つまでの3年半の記録

出演..妹島和世

製作..大阪芸術大学

2020年/日本カラー/16:9/60分/英語字幕付き

英語題.. Architecture, Time and Kazuyo Sejima

配給..ユーロスペース

URL : kazuyosejima-movie.com

地形を設計する。風景を建築する。



妹島和世

建築家

1956年茨城県生まれ。

1981年日本女子大学大学院家政学研究所を修了。

1987年妹島和世建築設計事務所設立。

1995年西沢立衛とともにSANAAを設立。

2010年第12回ベネチアビエンナーレ国際建築展の総合ディレクターを務める。

日本建築学会賞※、ベネチアビエンナーレ国際建築展金獅子賞※、プリツカー賞※、芸術文化勲章オフィシエ、紫綬褒章などを受賞。

現在、ミラノ工科大学教授、横浜国立大学大学院建築都市スクール（e-GSA）教授、日本女子大学客員教授、大阪芸術大学客員教授。※はSANAAとして。



2020年10月3日(土)より

ロードショー

前売鑑賞券¥200円(税込)絶賛発売中!

(当日一般¥1,800税込)

ユーロスペース

(渋谷 Bunkamura 前交差点左折)

東京都渋谷区山手町1-5 KINOKIUS 6階

03-3461-0211

www.eurospace.co.jp

Copyright 2020 Osaka University of Arts. All Rights Reserved.

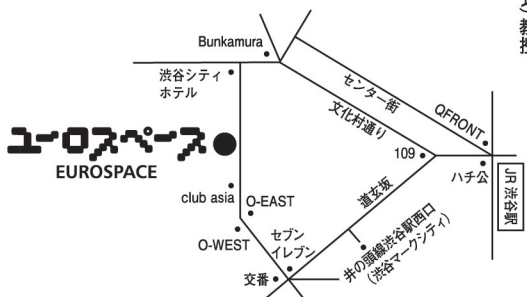
建築

妹島和世。
大阪芸術大学アートサイエンス学科。
アートとサイエンスとテクノロジーを柔軟に連携させて、
これまでになかった研究と教育を行う新校舎に、
妹島和世が込めた思いは「公園のような建物」。

妹島和世。
金沢21世紀美術館やルーブル美術館ランス別館などを手がけ、
建築界のノーベル賞とも称されるプリツカー賞を受賞した建築家。
彼女は新校舎の設計・建築にあたり大切にしたいことを3つ挙げている。
一つは、建物が立つ「丘」に合せた外観であること。
それは周辺の環境と美しく調和する、有機的なフォルムを導き出した。
さらに、建物が「開かれている」こと。
様々な方向からの出入りでき、様々な方向への視界が確保できるような、
内と外との自然なつながりを実現した。
そして、そこが人々の「交流の場」となること。
まさに、誰もが立ち寄れる、見晴らしのいい丘の上の「公園」である。
その構想から完成までの、3年6か月という時間を追ったドキュメンタリー。
一人の建築家の一つの建築に向き合う姿を鮮明に描き出している。
監督・撮影は、ル・コルビジエ、丹下健三など。
数々の建築物を撮影してきた写真家 ホンマタカシ。
90年代に妹島と出会い、それ以来妹島建築を撮影してきた。
その彼の映像の力が、妹島の作品を通して「もう一つの作品」を作りあげた。

時間

ホンマタカシ
写真家
1962年東京生まれ。
1999年、写真集『東京郊外 TOKYO SUBURBIA』(光琳社出版で第24回木村伊兵衛写真賞受賞。2011年から2012年にかけて、個展「ニュー・ドキュメンタリー」を日本国内三カ所の美術館で開催。著書に「たのしい写真よい子のための写真教室」、近年の作品集に『THE NARCISSTIC CITY』(MACK)、『TRAILS』(MACK)がある。
また2019年『Symphony for the forest』(Case Publishing)、『Looking Through Le Corbusier Windows』(Walter König, CCA、窓研究所を刊行。
現在、東京造形大学大学院客員教授。



妹島和世